高等学校における漢文教育の再検討（五編）

Reexamination how to teach Chinese classical literature and philosophy to high school students（5）

安　東　俊　六
ANDOH Shunroku

一　はじめに

小論は,「国語総合」漢文編・漢文入門について検討した拙論「高等学校における漢文教育の再検討(続)」（注１),「国語総合」漢文編の思想教材について検討した「高等学校における漢文教育の再検討（三編)」（注２),「国語総合」漢文編の文学教材について検討した「高等学校における漢文教育の再検討（四編)」（注３）に続いて,「国語総合」漢文編の教材全般にわたっての問題点に検討を加えてみたいと思う。

殊に小論は,「国語総合」漢文編に採られている教材と大学の入学試験の課題文との隔たりに着目し,「国語総合」漢文編の教材が現状のままでよいのかという問題について，検討を加えてみたい。

二　「国語総合」漢文編の教材の現状

ここで教科書出版各社の「国語総合」(平成14年検定済)の思想と文学に関する教材をみてみよう。

＜「国語総合」の思想に関する教材＞

第一学習社

『新編　国語総合』漢文編

思想に関する教材は採られていない。

第一学習社

『高等学校　国語総合』漢文編

中国の思想

孔子と論語

学問　四章

子曰，吾嘗終日不食，・・・・

子曰，我非生而知之者。・・・・

子曰，弟子入則孝，・・・・

子以四教。・・・・

仁　四章

子貢問曰，有一言而・・・・

有子曰，其為人也，孝弟而好犯上者，

子曰，富与貴，是人之所欲也。・・・・

子曰，仁遠乎哉。・・・・

政治　三章

季康子問政於孔子。・・・・

子貢問政。子曰，足食，足兵，・・・・

子貢曰，如有博施於民，・・・・

明治書院

『新編　国語総合』

思想に関する教材は採られていない。

明治書院

『精選　国語総合』漢文編

４思想　―論語―

論語

学問

子曰，学而時習之，・・・・

冉求曰，非不説子之道。力不足也。・・・

子曰，不憤不啓，・・・・

弟子
宰予昼寝。・・・・
顔淵死。・・・・
司馬牛憂曰，人皆有兄弟。・・・・
在陳絶糧。従者病莫能興。・・・・
人間
子在川上曰，逝者如斯夫。・・・・
子貢問政。子曰，足食，足兵，・・・・
葉公語孔子曰，吾党有直躬者。・・・・

大修館書店
『国語総合』漢文編
四　孔子と孟子の思想
学問（論語五章，孟子一章）
子曰，学而時習之，・・・・
子曰，由，誨女知之乎。・・・・
子曰，学而不思，則罔。・・・・
子曰，吾嘗終日不食，終夜不寝，・・・・
子曰，吾十有五而志于学。・・・・
孟子曰，仁，人心也。・・・・
政治（論語四章，孟子一章）
子曰，其身正，不令而行，・・・・
子曰，道之以政，斉之以刑，・・・・
葉公語孔子曰，吾党有直躬者。・・・・
子貢問政。子曰，足食，足兵，・・・・
孟子曰，無恒産而恒心者，・・・・

大修館書店
『新編　国語総合』漢文編
3　孔子のことば
学問のすすめ
子曰，学而時習之，・・・・
子曰，学而不思，則罔。・・・・
子曰，吾嘗終日不食，終夜不寝，・・・・
子曰，由，誨女知之乎。・・・・
子曰，吾十有五而志于学。・・・・
いかに生きるか
子曰，巧言令色，・・・・
子曰，剛毅木訥，・・・・
子曰，君子和而不同。・・・・
子曰，質勝文則野。・・・・
子曰，参乎，吾道一以貫之。・・・・
子貢問曰，有一言而・・・・

教育出版
『国語総合』漢文編
思想
論語
孔子の教えと人となり
子曰，巧言令色，・・・・
子貢問曰，有一言而・・・・
子曰，見賢思斉焉，・・・・
子曰，飯蔬食，飲水，・・・・
廏焚。子退朝曰，・・・・
諸国遊説と受難
衛霊公問陳於孔子。・・・・
葉公語孔子曰，吾党有直躬者。・・・・
子畏於匡。顔淵後。・・・・
在陳絶糧。従者病莫能興。・・・・
我を知る者は其れ天か
子曰，不患人之不己知，・・・・
子曰，莫我知也夫。・・・・

東京書籍
『新編　国語総合』漢文編
3　論語のことば
論語　十章
学問　子曰，学而時習之，・・・・
子曰，吾十有五而志于学。・・・・
子曰，学而不思則罔。・・・・
人間　子曰，巧言令色・・・・
子在川上曰，・・・・
廏焚。子退朝曰，・・・・
子貢問曰，有一言而・・・・
政治　子曰, 道之以政, 斉之以刑, ・・・・
葉公語孔子曰，吾党有直躬者。・・・・
子路問君子。・・・・

東京書籍
『国語総合』　古典編　漢文編
四　論語と孔子
論語　十章
学問　―　学而時習之
子曰，学而時習之，・・・・
子曰，吾十有五而志于学。・・・・
子曰，学而不思則罔。・・・・
子曰，不憤不啓，・・・・
人間　―　好之者，不如楽之者

子曰，知之者，不如好之者。・・・・
子在川上曰，・・・・
季路問事鬼神。・・・・
子謂顔淵曰，用之則行，・・・・
政治　一　民無信不立
子貢問政。子曰，足食，足兵，・・・・
葉公語孔子曰，吾党有直躬者。・・・・
孟子
何必曰利
曽子曰，吾日三省吾身。・・・・
子貢問曰，有一言而・・・・
子曰，飯蔬食，飲水，・・・・
季路問事鬼神。・・・・
子貢問政。子曰，足食，足兵，・・・・
孟子
梁恵王曰，寡人之於国也，・・・・
孟子曰，仁人心也。・・・・
孟子曰，無恒産而恒心者，・・・・

三省堂
『高等学校　国語総合』古典編　漢文
語録　　論語・孟子
［一］子曰，温故而知新，・・・・
［二］子曰，吾十有五而志于学。・・・・
［三］子曰，学而時習之，・・・・
［四］子曰，学而不思則罔。・・・・
［五］子貢問曰，有一言而・・・・
［六］子曰，巧言令色・・・・
［七］子曰，剛毅木訥，・・・・
［八］曽子曰，吾日三省吾身。・・・・
［九］孟子曰，仁人心也。・・・・

桐原書店
『探求　国語総合』（古典編）漢文編
４　思想
論語
子曰，学而時習之，・・・・
子曰，吾十有五而志于学。・・・・

筑摩書房
『精選　国語総合』（古典編）漢文編
思想
論語
［学問］
子曰，学而時習之，・・・・
子曰，吾嘗終日不食，・・・・
子曰，不憤不啓，・・・・
［人生］
子曰，吾十有五而志于学。・・・・
曽子曰，吾日三省吾身。・・・・
子游問孝。子曰，今之孝者，・・・・
［社会と政治］
子曰，甯武子，邦有道則知。・・・・
子貢問政。子曰，足食，足兵，・・・・
［孔子とその弟子］
子謂子貢曰，女与回也孰愈。・・・・
子謂顔淵曰，用之則行，舎之則蔵。・・・・

＜「国語総合」の文学に関する教材＞

教育出版
『国語総合』
唐詩　九首
四季の歌
春暁　山亭夏日　山行　江雪
自然と人生
竹里館　涼州詞　早発城帝城　春望
香炉峰下、新卜山居、草堂初成，偶題東壁
漢文コラム３　漢詩のきまり

桐原書店
『探求　国語総合』（古典編）
２　詩文
五言絶句
登鸛鵲楼　王之渙
秋夜寄丘二十二員外　韋応物
峨眉山月歌　李　白
送元二使安西　王　維
楓橋夜泊　張　継
涼州詞　王　翰
五言律詩
登岳陽楼　杜　甫
送友人　李　白
八月十五日夜、禁中独直，対月憶元九　白居易
文章
雑説　韓 愈

三省堂

『高等学校　国語総合』（古典編）

漢詩　漢詩八首

春暁　孟浩然
登鸛鵲楼　王之渙
静夜思　李　白
送元二使安西　王　維
江南春　杜　牧
涼州詞　王　翰
登岳陽楼　杜　甫
香炉峰下、新卜山居、草堂初成，偶題東壁　白居易

○漢詩の表現

小説　復活　干　宝
文章　雑説　韓　愈

第一学習社

『新編　国語総合』

漢詩の世界
唐詩の旅
黄河と古都
登鸛鵲楼　王之渙
春望　杜　甫
西域
涼州詞　王　翰
送元二使安西　王　維
長江と名山
黄鶴楼送孟浩然之広陵　李　白
香炉峰下新卜山居
草堂初成偶題東壁　白居易
・漢詩のきまり

第一学習社

『高等学校　国語総合』

漢詩の鑑賞
唐詩の世界
自然　春暁　孟浩然
江雪　柳宗元
江南春　杜　牧
望郷　静夜思　李　白
除夜作　高　適
登高　杜　甫
別離　黄鶴楼送孟浩然之広陵　李　白
送元二使安西　王　維
春望　杜　甫

○漢詩のきまり

大修館書店

『新編　国語総合』

２　唐詩のしらべ
自然の歌［春暁・江雪・山行］
友情のうた［秋夜寄丘二十二員外・送元二使安西・黄鶴楼送孟浩然之広陵］
憂愁のうた［登楽遊原・春望］
古典を読むために　③＜漢詩について＞

大修館書店

『国語総合』

三　唐代の詩文
絶句
絶句　杜　甫
登鸛鵲楼　王之渙
江雪　柳宗元
春夜洛城聞笛　李　白
送元二使安西　王　維
山行　杜　牧
律詩
春望　杜　甫
香炉峰下、新卜山居、草堂初成，偶題東壁　白居易
文章
雑説　韓　愈
古典を読むために　１漢詩について

筑摩書房

『精選　国語総合』（古典編）

唐詩
春暁　孟浩然
秋風引　劉禹錫
江雪　柳宗元
山中問答　李　白
送別　杜　牧
送元二使安西　王　維

東京書籍

『新編　国語総合』

２　唐詩を味わう
唐詩　八首
［自然］　春暁（孟浩然）
参考　春のあかつき（前野直彬）

竹里館（王維）
　参考　竹里館（佐藤春夫）
登鸛鵲楼（王之渙）
［友情］　送元二使安西（王維）
黄鶴楼送孟浩然之広陵（李白）
［人生］　静夜思（李白）
　参考　静夜思（井伏鱒二）
涼州詞（王翰）
春望　（杜甫）
漢文のしるべ②　漢詩のきまり

東京書籍
『国語総合』（古典編）
二　唐代の詩文
唐詩　絶句　杜　甫
登鸛鵲楼　王之渙
江雪　柳宗元
送元二使安西　王　維
早発白帝城　李　白
涼州詞　王　翰
送友人　李　白
春夜喜雨　杜　甫
香炉峰下、新卜山居、草堂初成，
偶題東壁　白居易
漢文学習のしおり３　漢詩のきまり
雑説　韓　愈

明治書院
『新編　国語総合』
３唐詩
唐詩六首
（春暁　秋日　江南春　送元二使安西
早発白帝城　春望）
近体詩の決まり

明治書院
『精選　国語総合』
３唐詩
唐詩九首（秋風引　江雪　勧酒　贈汪倫
清明　送元二使安西　楓橋夜泊
月夜　八月十五日夜　禁中独直
対月憶元九）
漢詩の手引き

上に見るように，思想に関する教材では，圧倒的に『論語』であり，僅かに『孟子』も採られてはいるが儒家のみに偏っていて，道家や墨家・法家などは全く採られていない。

また文学に関する教材でも，圧倒的に詩であり、それも唐詩に限られている。僅かに２編だけ採られている文章は、韓愈の「雑説」と干宝の古小説「復活」とであって，異例中の異例の採録といえる。

三　センター入試をはじめとした大学入試の課題文の現状

ここ三ヶ年間の大学入試センター試験（本試験）で出題された漢文の課題文をみてみよう。

2005年度は，国語Ⅰ＝劉基『郁離子』から。　国語Ⅰ・Ⅱ＝張燧「千百年眼」から。

2006年度は，胡儼『胡祭酒集』から。

2007年度は，姚元之『竹葉亭雑記』から。

である。

ここに見るように，出題された課題文は散文である。もっとも,2007年度の姚元之『竹葉亭雑記』からの出題では，課題文中に七言絶句が含まれていて，七言絶句の押韻に関する設問があるにはある。しかし2007年度の七言絶句の押韻に関する出題は，あくまでも例外的なことであって，過去十年ほどの大学入試センター試験（本試験）の出題を遡って見てみても，出題は圧倒的に散文からである。

また次に，全てではないが国立大学のここ三ヶ年の出題についても，Obunsha 刊『全国大学入試問題正解』６国語（国公立大編）によって見てみよう。示す順序は2005・2006・2007年度の順とし，出題の傾向を把握することを目的とするここでは，出題対象学部名などは省略した。

北海道大学：王度「古鏡記」，范曄『後漢書』，韓嬰『韓詩外伝』。

小樽商科大学：劉義慶『世説新語』，白居易「草堂記」，李清照「金石録後序」。

弘前大学：『韓非子』，孔鮒『孔叢子』，欧陽脩「太尉文正王公神道碑銘」。

岩手大学：貝原益軒『慎思録』，劉義慶『世説新語』，呂坤『呻吟語』。
東北大学：洪邁『容斎続筆』，彭希涑『二十二史反爾録』，揭傒斯「贈医氏湯伯高序」。
宮城教育大学：呉兢『貞観政要』，徐渭「葉子粛詩序」，陸容『菽園雑記』。
秋田大学：茅坤『唐宋八大家文鈔』，『晏子春秋』『論語』，益戸滄洲『秋田文苑』。
福島大学：『孔子家語』，韓嬰『韓詩外伝』，＊杜甫「茅屋為秋風所破歌」。
筑波大学：李延壽『南史』，班固『漢書』，＊白居易「読謝霊運詩」。
埼玉大学：張鷟『朝野僉載』，銭泳『履国叢話』，王応奎『柳南続筆』。
千葉大学：羅隠「英雄言」・羅大経『鶴林玉露』，沈括『夢渓筆談』，服部南郭『大東世語』・劉粛『大唐新語』・王符『潛夫論』。
東京大学：陳其元『庸間斎筆記』・蘇洵「諫論」，彭乗「続墨客揮犀」，陶宗儀『輟耕録』。
東京学芸大学：劉基『郁離子』，蘇軾「剛説」，『韓非子』。
お茶の水女子大学：張耒『明道雑志』，羅大経『鶴林玉露』，蘇伯衛「空同子警説」。
新潟大学：陳継儒「読書十六観」，劉義慶『世説新語』，陸賈『新語』。
金沢大学：王闢之『澠水燕談録』，朱弁『曲洧旧聞』，＊袁枚「遣懐雑詩」。
福井大学：劉昫『旧唐書』，李延壽『南史』，唐甄『潛書』。
山梨大学：大江匡房『本朝神仙伝』，李玆『太平広記』，河玄佑『前戯録』。
信州大学：劉向『戦国策』，劉向『戦国策』，『琱玉集』。
岐阜大学：李翰『蒙求』，『韓非子』，『墨子』。
静岡大学：司馬遷『史記』・薛瑄『読書録』，＊白居易「把酒」・呂坤『呻吟語』，『列子』。
名古屋大学：『孔子家語』，李延壽『晋書』，劉義慶『世説新語』。
愛知教育大学：陳淳『北渓字義』，劉義慶『世説新語』，蘇軾「魏武帝論」。
三重大学：托克托『宋史』，許慎『説文解字』序，王十朋「四友堂記」。
滋賀大学：曽鞏「墨池記」，『列子』，蘇軾「記先夫人不残鳥雀」。
京都教育大学：欧陽脩『帰田録』，『列士伝』，劉向『説苑』。
大阪大学：『孔叢子』，朱弁『曲洧旧聞』，欧陽脩「非非堂記」。
大阪教育大学：陶宗儀『南村輟耕録』，司馬遷『史記』，方苞「婢音哀辞」。
奈良女子大学：張瀚『松窓夢語』，劉錬『隋唐嘉話』，劉基『郁離子』。
神戸大学：袁枚『随園食譚』，劉向『列女伝』，范曄『後漢書』。
和歌山大学：張邦幾「侍児小名録拾遺」，（非公開），陶潛「搜神後記」。
島根大学：『晏子春秋』，劉向『説苑』，范曄『後漢書』。
岡山大学：陸游『剣南詩稿』，劉義慶『世説新語』，『呂子春秋』。
広島大学：顧炎武「与人書」，辛文房『唐才子伝』，費袞『梁渓漫志』。
山口大学：郭若虚『図画見聞誌』，朱熹『近思録』，司馬遷『史記』。
香川大学：王充『論衡』，范曄『後漢書』，司馬光『資治通鑑』。
愛媛大学：『荘子』蘇軾「日喩」・賈島の詩，左丘明『春秋左伝』・『論語』，彭端淑「為学一首」・＊温庭筠「商山早行」と関連の詩論。
福岡教育大学：『晏子春秋』，王安石「傷仲永」，左丘明『春秋左伝』。
九州大学：劉義慶『幽明録』・『天主実義』，王士鎪「池北偶談」，白居易『白氏文集』。
熊本大学：紀鼇『閲微草堂筆記』，虞韶『日記故事』，顔之推『顔氏家訓』。
宮崎大学：劉向『戦国策』，曽先之『十八史略』，『礼記』。
鹿児島大学：『列子』，劉向『新序』，『呂氏春秋』。

上に見るとおり，圧倒的に散文である。ここで＊印を付して示したように，韻文を出題した大学が数大学あるにはある。しかしこれも大学入試センター試験（本試験）の出題と同様に，極めて例外的なことであって，出題の主流となっているのは散文，それも史書や説話集，随筆集などからの出題が圧倒的な量を

占めている。

四　「国語総合」漢文編の教材と大学入試の課題文との隔たり

上に見た，この「国語総合」漢文編の教材と大学入試の課題文との著しい隔たりは，どうであろうか。両者のこの著しい隔たりは，高等学校における漢文教育の問題点として，従来着目されることもなく見過ごされてきた。しかしこのことは看過しがたい問題を含むものであると私は考える。したがって改めてここに取り上げて，検討を加えてみたいと思う。

まず「国語総合」漢文編の教材について考えてみるに，「国語総合」漢文編の思想・文学の教材について検討を加えた拙論で既に述べたとおり（注４），思想の教材として，儒家の思想とりわけ『論語』から幾章かを採ることは，そこで指摘したような幾つかの問題があるとはいうものの，基本的には決して誤ったことではない。なぜならば，高校生が日々生活している今日の社会の基盤となるものの考え方が，『論語』には多く記されているからである。

また同様に，文学の教材として唐詩の名作を選んで採ることも，これまた指摘したような幾つかの問題があるものの，基本的には何ら誤ったことではない。なぜならば，唐詩は中国の詩の精華であり，しかも教材に採られた詩はいずれも名作ぞろいであって，日本でも古くから愛誦されてきた作品ばかりだからである。

しかし，改めて漢文編の教材を見てみるとき，現代文や古文の教材とは著しく異なって，教材が偏っていることに注意を引かれる。現代文の教材では，俳句や短歌，現代詩といった作品の他に小説や評論といった散文の作品が多く採られていて，教材の範囲はほぼあらゆるジャンルに亘っているといえる。また古文の教材をみてみても，作品の数が少ないとはいえ，俳句や短歌の他に物語や随筆などの散文作品が必ず採られていて，現代文と同様にあらゆるジャンルに亘っているといってよい。しかし漢文の教材はというに，上に見てきたように，『論語』から採られた諸章と唐詩の数首にほぼ限定されている。なるほど『論語』から採られた諸章は，紛れもなく散文である。しかし現代文や古文の教材の散文作品とは，内容といい分量といい明らかに異なったものである。いうならば漢文の教材には，現代文や古文が教材とするような散文作品は，採られていないということである。先にも異例中の異例と述べたとおり，散文は僅かに韓愈の「雑説」と干宝の古小説「復活」のみである。これははなはだしい教材の偏りといわなければならない。同じ「国語総合」の中にありながら，現代文・古文・漢文の三領域のうち，漢文にのみこのような教材の偏りがあることは，大きな問題であろう。

次に大学の入試問題の課題文について考えてみてみるに，大学入試は高等学校の教育の現状を踏まえて出題すべきであるという原則に従うならば，「国語総合」漢文編の教材とかくのごとく大きな隔たりがあるということ自体，大学入試センターはじめ漢文を出題する国立大学は，出題に当たって，「国語総合」漢文編の教材の現状を無視して出題しているということになってしまう。これもまた大きな問題であるといわなければならない。

ところで，私も国立大学に籍を置いて漢文を出題する立場にある一人だが，私は少なくとも「国語総合」漢文編の教材の現状を無視して出題してはいない。私の出題の基本姿勢は，「国語総合」漢文編の教材の現状を踏まえた上で，修学上必要な学力を測ろうとするものである。また私の所属は教育学部であって，将来中学校・高等学校で教科「国語」を担当する教員を養成している。教員養成学部に籍を置いているからには，「国語総合」漢文編の教材の現状を無視して出題するなどということが，私に許されようはずはない。何も私は，この私の出題の基本姿勢が，他の国立大学や大学入試センターの出題の姿勢と全く同じものであるなどというつもりはない。しかし私の出題の基本姿勢が，大学入試センターはじめ漢文を出題する他の国立大学の出題の姿勢と，おおむね一致しているのではないかとは考えている。

その出題の基本姿勢とは，漢文とて「国語」の一領域であるからには，入学試験において試みるべきは総合的な国語の能力，すなわち読解力や論理の構成能力，文章表現能力といった国語の総合的な能力を試すということである。漢文の領域に関する知識や漢文訓読法に関わる出題も全くしないわけではないが，

それはあくまでも末節のことであって，主眼は紛れもなく総合的な国語の能力を試みることにある。

ここで今一度，こうした出題の基本姿勢を持つ私の立場から見直してみるとき，大学入試センターはじめ漢文を出題する国立大学の入学試験の課題文は，圧倒的に散文作品を選んではいるものの，総合的な国語力を試すという観点からすれば，あながち「国語総合」漢文編の教材の現状を無視して出題されているとはいえない。たしかに設問によっては，受験生のどのような力を試そうとしているのか，意図を図りかねるような設問もないではない。しかしその設問にしても，その大学が学生募集に当たって公表しているアドミッションポリシーに即しての出題であるからには，高校の教材の現状を無視した出題などであろうはずはない。

私は大学に籍を置いていて出題する側にあるので，私の考え方が出題する側の論理を重視していることはほぼ間違いないであろう。しかし今仮にその分を大きく割り引いてみたとしても，出題する大学側の出題の意図に即して課題文が散文に偏っているという事実と，「国語総合」漢文編の教材が大きく偏っていて散文が殆んど採られていないという事実とを，改めて対置して冷静に検討を加えてみるとき，「国語総合」漢文編の教材と大学入試の課題文との著しい隔たりを積極的に解消すべきは，やはり「国語総合」漢文編の教材の方であろうと，私は考える。

五　「国語総合」漢文編の教材に望まれること

上来述べてきたように，「国語総合」漢文編の教材が大きく偏っていて散文が殆んど採られていないという事実と，大学入試センターはじめ漢文を出題する国立大学の入試の課題文が圧倒的に散文であるという事実とは，否定しがたい事実であり，その著しい隔たりは早急に解消されなければならないであろう。

ところで，私は既に「国語総合」漢文編の教材はかくあることが望ましいという試案を提示したことがある（注５）。いうまでもなくその試案は，小論がここに検討を加える問題をも踏まえた上で立案したものである。そこで改めてここで概要を示して，その上に論を積み重ねていくことにしたい。

本来であれば，入学試験の課題文と高等学校の漢文の教材とを取り上げて論じ，「国語総合」漢文編の教材はかくあることが望ましいという試案を提示するに当たっては，「古典」と「古典講読」の漢文教材も併せて同時に検討を加えるべきであろう。しかしここでは紙幅の都合で併せて検討を加えることは困難であるので，「古典」と「古典講読」の漢文教材は念頭に置いておくということに留めた。

また，私が示した試案は，今日の中学校・高等学校の漢文教材の現状を追認したものではない。すでに繰り返し述べてきたとおり，漢文の教材配置には中学校・高等学校に一貫性がみられず，しかも中学校・高等学校の教材には，現代文・古文には見られないほどの多くの同一教材の重複がみられる。今ここでその二つの大きな弊害を無視したままで，現状を追認したかたちの試案を提示したとしても，それは所詮教材を入れ替えるだけの小手先の処方に過ぎず，意味をなさない。したがって今一度ここで，中学校・高等学校における一貫した漢文教材の再配置と，同一教材の重複を取り除くべきであるという主張を繰り返して確認をしておきたい。

同一教材の重複を何ゆえに避けるべきかは，多言を要するまでもなく自明のことであろう。周知のとおり，漢文教材に配当される授業時数はあまりにも少ない。したがってこの一事からだけでも，同一教材を重複して学習する時間のゆとりなどないことは，明々白々である。早急に同一教材の重複学習を全面的に廃して，その時間を他の新しい教材の学習に振り向けるべきであろう。

また，中学校と高等学校における漢文教育には，現行の中学校の「国語」の教科書と「国語総合」の教科書を見る限り，中・高に一貫した理念の存在は認められず，当然教材の配置にも一貫性は認められない。この中・高における一貫性のなさは，教科書検定制度というものがありながら，少なくとも漢文教育に関しては，それが有効に機能していないということを如実に物語っているといえる。

ここで，改めてかつて示した試案の概要を示せば，次のとおりである。

中学校第１学年では，故事成語を取り上げる。中学校第２学年では，『礼記』を取り上げる。中学

校第３学年では，第２学年に引き続いて思想の教材としての『論語』を取り上げる。
「国語総合」では，思想の教材としては『論語』『荘子』『墨子』，史伝の教材としては『史記』を，文学の教材としては，詩と文とを取り上げる。

この試案には，従来採られることのなかった新たな教材をいくつか加えている。中学校の教材では，思想の教材として『礼記』を新たに加え，「国語総合」の教材では，思想の教材として『荘子』『墨子』を，史伝の教材として『史記』を，更に文学の教材として散文作品を加えている。

したがって，まず新たな教材の学習のために，授業時間を確保することが必須の要件である。しかしそれには好都合というべきか，さきに弊害と指摘した同一教材の重複問題がある。まずその重複の全廃を断行すれば，その分の時間を確保することが可能である。また，「国語総合」での故事成語の再度の学習や，さほど役にも立たない漢文訓読法の学習を廃すれば，その時間も確保することもできる。更にそれに加えて，従来採られてきた『論語』や唐詩の教材についても，更に厳選に厳選を重ねて章数と詩数とを減らせば，その分の時間も確保される。このようにして，まず新教材に対する授業時間を確保せねばならない。

時間を確保したところで，つぎには採るべき教材の内容について吟味を加えてみよう。

第一には，思想の教材，文学の教材として『論語』と唐詩とを，採るべきである。それに当たっては，今主張したことを繰り返すことになるけれども，厳選に厳選を重ねた上で数を減らさなければならない。

第二には，小論の主眼とするところである散文作品を必ず採るべきである。その散文作品の内訳は，思想の教材として『荘子』『墨子』を，史伝の教材として『史記』を，更に文学の教材としても散文作品を採るというものである。

思想の教材として『荘子』『墨子』を，さらに史伝の教材として『史記』を採るべきであるとする理由は，既に詳述したところであり（注５），重ねて論じることは避けよう。

したがって，ここでは更に採るべきだとする文学教材の散文作品について，適格の要件を示しておきたい。

これには，まず先に引いた大学入学センター及び国立大学の入試の課題文が，もっとも参考になる。それは何も，受験に即応しているなどという姑息な手段を意味していっているのではない。入試の課題文は，文章の長さが適度であるという点からいっても，内容の密度が濃いという点からいっても，「国語総合」の教材としてふさわしい条件を兼ね備えているといえるからである。
また課題文の多くは，随筆雑記，説話集の類からのものであるが，これらの文章は読解力を高める上で高校生にとって有益な教材であるといえる。そして併せてこれらからは，論理の構成の仕方や簡潔な文章表現の仕方を，同時に学び取ることができる。その意味でも，これらの課題文は，高校生にとって学ぶ意義のある教材であるといってよい。

いうまでもないことながら，文学教材の散文作品においては，中学校で学んだ思想の教材や「国語総合」で学ぶ思想の教材との整合性が，重視されなければならない。さすれば教材の散文作品は，儒家の思想の反映された文章を採ることが最も望ましいことになろう。しかし，だからといって殊更に儒家の思想にのみ拘泥することには意味がない。高校生の平均的な理解が及ぶ範囲の文章であれば，教材の文章を通して道家や墨家，法家の思想に触れさせることも重要である。

ここで，望ましいと考えるかかる適格の諸要件を踏まえて結論するならば，「国語総合」漢文編の教材において，あくまでも重視すべきは，その学習を通して国語力を養い高めることであって，単に瑣末的な漢文訓読法の技術の習得や，詩の鑑賞にのみ終始する教材であってはならないということである。
私が散文作品を積極的に採るべきであると主張する所以は，実にこの一事にある。

注

１『岐阜大学教育学部研究報告』＝人文科学＝第54巻１号，2005年10月，pp．左１～10
２『岐阜大学国語国文学』第32号，国語教育講座，2005年12月，pp．左１～11
３『岐阜大学教育学部研究報告』＝人文科学＝第55巻１号，2006年10月，pp．左１～10

４「高等学校における漢文教育の再検討（三編）」と「高等学校における漢文教育の再検討（四編）」。

５「高等学校における漢文教育の再検討（続）」,『岐阜大学教育学部研究報告』＝人文科学＝第54巻１号, 2005年10月，pp．左１～10